

県民の皆さんに 寄り添います

令和元年11月に県議会に送り出していただき、1期4年間「福島の進化に挑戦！」をモットーに、県政の場で全力投球を続けてきました。政治の原点は東日本大震災、福島第一原発事故という未曾有の災害を、新聞記者として被災地の最前線から訴え続けたことであり、政治信条の「県民に寄り添う」の思いは不変です。県議として、一歩足を踏み出した直後から、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、震災、原発事故時の放射線と同じように、県民の安全・安心への不安と苦境の中での希望を見いだす子どもたちの姿に励まされました。

県議としてコロナ対応に注力する毎日でした。医師や看護師、介護士ら最前線で身を削りながら対応する方々への支援、社会・経済活動の自粛を余儀なくされる中で影響を受けた生業の方々への支援、そして、何より、感染された方々の一日も早い回復に向けた取り組みが必要であり、県政の場で訴え続けました。コロナ禍の中で災いは続き、本県沖を震源とする2度の大地震、遅霜、降雪（ひょう）という相次ぐ農業災害が発生。被害を受けた中小企業、観光・宿泊事業者、そして、農業者の各方々の思いを代弁してきました。

日々の活動の中で、社会的弱者の方々からの要望を受けることが多々あります。活動の成果として、福島県犯罪被害者等支援条例の制定を実現することはできましたが、子どもや障がい者の生活を守るため、より豊かにするための政策、条例等が求められています。記者として少数意見であっても一人一人の声を聞いてきた経験を活かし、書く力を政策を実現する力に変えてきましたが、人口減少をはじめ、復興・再生、コロナ対策、産業振興、防災、教育等の取り組みも道半ばであります。

これまでに得た人脈や経験を活かして、さらに全力で県政に取り組みます。福島が復興を成し遂げるその日まで、福島の進化に挑戦していきます。

てっちゃんのプロフィール

名前 渡辺 哲也（わたなべてつや）
昭和51年8月10日 川俣町生まれ
平成7年3月 学法福島高等学校普通科卒業
平成11年3月 福島大学経済学部卒業
平成11年4月 福島民友新聞社入社
平成16年4月 浪江支局長
平成20年4月～平成25年3月 報道部（県政記者クラブ）
・H23.11.12 事故後初めて公開された毎時1ミリシーベルトに迫る福島第一原発を取材
・H23「福島原発-災害連鎖3.11から」の連載を担当
・H24「原発共生の虚実」の連載を担当
平成25年4月 報道部主任（遊軍キャップ）
・H25「岐路-ふくしまの選択」の連載を担当
平成27年3月 いわき支社報道部長
平成29年4月～平成31年3月 報道部次長（県政キャップ）
・H29「倉本聡さん7年目の福島を歩く」を担当
・H31「倉本聡さん震災8年福島を見つめる」を担当
平成31年3月 退社
令和元年11月福島県議会議員初当選

■ 役職歴 ■

- 県議会農林水産常任委員会委員
- 県議会広報委員
- 県議会少子高齢化・人口減少対策特別委員

■ 現職 ■

- 県議会商労文教常任委員会副委員長
- 県議会県民健康・子どもの未来特別委員
- 福島県議会政務活動費検討委員
- 自民党福島県連政調副会長
- 自民党福島県連青年局 次長
- 自民党福島市総支部 副総支部長
- 学法福島高等学校校友会 事務局次長
- 福島大学福島信陵同窓会 常任幹事
- 大波三兄弟福島後援会 幹事

■ 座右の銘 ■

如遊（遊ぶが如し）

■ 家族・趣味 ■

妻と娘2人の4人家族
趣味 ウォーキング、山登り

■ 渡辺てつや事務所 ■

てっちゃんと福島をつくる会
〈事務所〉
〒960-0101 福島市瀬上町字行人堂1-3
オフィスオバラ1-A
TEL 080-2839-0109 FAX 024-511-0563
E-Mail watanabe1976@watanabe1976.jp



ユーチューブチャンネル【てっちゃんネル!】



ホームページ



ツイッター



フェイスブック



インスタグラム

福島の進化に挑戦!

福島県議会議員

渡辺 てつや



自由民主党公認 討議資料

県議1期目で実現したこと

子ども・福祉

- 犯罪被害者の支援の必要性を訴え、県に単独の条例制定を求めました。
2022年4月施行の福島県犯罪被害者等支援条例の制定につながり、被害者の経済的負担軽減や心身のケアなど、支援策が拡充されました。



- 視覚障がい者の日常生活訓練などを支える歩行訓練士の増員などについて、県の対応を求めました。
「福島県ロービジョンネットワーク」など関係団体の方々の熱心な働き掛け等が実を結び、3歳児健診で活用する視覚検査機器の各保健福祉事務所への配備や歩行訓練士の増員に向けた研修派遣事業の着手などに、つながりました。

防災

- 大規模災害への備え、防災意識の啓発として、県庁内のエレベーター内に「防災いす」の設置を提案。県庁に初めて設置されました。

新型コロナウイルス対策

- 義肢装具士が感染拡大当初、ワクチンの早期接種に関わる医療従事者に含まれていなかったことから、日本義肢協会東北支部等関係者の要望を受け、県に早期接種を要望しました。県の対応として、同支部に所属する義肢装具士の方々へのワクチン接種が実現しました。



農業

- ウクライナのロシア侵攻に端を発した飼料価格等の高騰が県内の畜産関係者を悩ます中で、家畜のえさとなる子実用トウモロコシの県内生産拡大を求めました。県は2023年度当初予算の中に、生産拡大を進めるための予算を盛り込みました。



くらし

- 地域住民の安全・安心、快適な暮らしを支えるための道路環境、社会インフラの整備を求めてきました。国道399号飯坂トンネル照明のLED化、同飯坂大橋の電灯の更新、各種県道の補修など地域住民の要望を実現しました。

渡辺てつやの政策



令和5年2月議会 追加代表質問

安心・安全に暮らせる福島をつくります



- 犯罪被害者支援のさらなる拡充を目指します。
- なりすまし詐欺の被害防止に向けた防犯啓発の重要性を提言します。
- 結婚・出産・子育て支援のさらなる拡充を進めます。
- 子ども食堂への支援拡充、ヤングケアラー問題への対応など子どもを社会全体で守る取り組みに全力を尽くします。
- 教育環境の充実に取り組みます。
- 大規模災害からの住民の生命と財産を守るための国土強靱化の取り組みを進めます。
- 国道399号（仮称飯坂東バイパス）の整備促進を含めた、福島都市圏道路ネットワークの整備に取り組みます。

健康長寿＝福島の実現に向けた取り組みを進めます

- 医師・看護師の養成・確保を進め、地域医療の充実を目指します。
- 障がいのある方が暮らしやすい環境をつくります。
 - 高齢者の方々の社会参加、生きがいづくりの充実を求めます。
 - コロナ感染症の医療提供体制の整備や感染拡大防止の取り組みに向き合います。
 - 新型コロナウイルス感染症の後遺症に悩む方々の支援を求めます。



「福島」の未来をつくりたい

世界に誇る福島ブランドの継承、さらなる魅力化に取り組みます

- 温泉を活かしたまちづくり、賑わいの創出を目指します。
- モモ、リンゴ、ナシ、サクランボなどブランド農産物の生産支援、販路拡大に取り組みます。
- 食料安全保障の重要性が高まる中、輸入依存度の高い畑作物や自給飼料の増産を進めます。
- 移住して良かったと思える福島の移住環境の整備に力を尽くします。



地域を支える農工商・観光の振興を目指します

- 事業承継、新たな工場新設など地元中小企業家が挑戦を続ける環境を整えます。
- 製造業など地元企業の人材確保への支援を進めます。
- 中長期的な原油価格・物価高騰対策を提言します。
 - 地域ぐるみ、住民主体で行う脱炭素の取り組みの普及に尽力します。
 - デジタル改革に取り組む中小企業を応援します。
 - 福島イノベーション・コースト構想と地元企業とのマッチングを実現させます。



内堀知事とともに
福島の進化に挑戦していきます